

平成27年7月24日

豊田市議会議長 神谷和利 様

教育次世代委員会  
委員長 山野辺 秋夫



### 委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

#### 記

- 1 日 程 平成27年7月14日（火）～7月16日（木）
- 2 派遣先及び内容  
14日（火）…東京都板橋区／赤ちゃんの駅の取組  
15日（水）…新潟県新潟市／野外型子育て支援センター「森のいえ」  
16日（木）…静岡県浜松市／小中一貫教育・小中一貫校の推進
- 3 派遣委員  
委員長 山野辺秋夫  
副委員長 深津 眞一  
委員 大村 義則 三江 弘海 北川 敏崇  
原田 隆司 大石 智里 鈴木 孝英
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行者／太田 錬治 佐嶋 晃

## 視察報告書様式【1】

委員会名	教育次世代委員会	委員長	山野辺 秋夫
視察日時	平成27年7月14日（火）午後1時30分～午後3時00分		
視察先・概要	東京都板橋区 人口：548,687人 面積：32.22km <sup>2</sup> 特記事項：特別区 ※人口はH27.7.1現在		
視察内容	赤ちゃんの駅の取組について		
選定理由	<p>赤ちゃんの駅は、乳幼児を抱える保護者の子育てを支援する取組の一環として、平成18年から全国に先駆けて設置が開始され、民間商業施設も加え、平成27年6月現在で175施設が指定されている。</p> <p>無料で誰でも利用でき、ミルク用のお湯の提供や育児相談への対応などのサービスを保育園や幼稚園、児童館などの公共施設だけでなく、一部の民間商業施設や大学においても実施されており、民間との共働が拡大している。この取組は今後の本市において参考となると判断したため。</p>		
豊田市の現状と課題	<p>本市においては、同様の役割を子育てサロンや子育て支援センターなどが担っている。子育て応援ハンドブックにおいて、子育てに関する情報を一体的に提供している。保育施設や交流館などの施設・事業・サークル活動などに関する情報は充実している。</p> <p>今後、さらに積極的な子育て支援を展開するにあたり、民間と共働し、情報等を一体的に取り扱うことが必要である。</p>		
視察概要	<p>●赤ちゃんの駅概要</p> <p>乳幼児を抱える保護者の子育てを支援する取り組みの一環として、外出中にオムツ替えや授乳などで立ち寄ることができるように、区立保育園・児童館などを「赤ちゃんの駅」に指定。</p> <p>1 利用日時：施設の開設時間内</p> <p>2 利用対象者：乳幼児（0歳から概ね3歳児まで）連れの保護者で、授乳又はオムツ替えを必要とする方</p> <p>3 実施施設：「赤ちゃんの駅」に指定するのは次の175施設（平成27年7月現在）</p> <p>[1] 民間商業施設等（12か所）</p> <p>[2] 区立児童館（38館）</p> <p>[3] 区立各保育園（39園）</p> <p>[4] 子育てひろば（3か所）</p> <p>[5] 公設民営保育園（1園）</p> <p>[6] 私立保育園（50園）</p> <p>[7] 区立幼稚園（2園）</p> <p>[8] 私立幼稚園（13園）</p> <p>[9] 保育施設・その他（7か所）</p> <p>[10] 私立大学施設（「森のサロン」を含む2か所）</p> <p>[11] 高齢者施設（1か所）</p> <p>[12] 健康福祉センター（5か所）</p> <p>[13] 区役所1階北館・3階南館（2か所）</p> <p>4 実施施設の表示</p> <p>「赤ちゃんの駅」フラッグ・ステッカーが、各施設の玄関先など、掲示</p>		
評価とその理由	<p>赤ちゃんの駅の認定基準として、オムツ替え、授乳の場所の提供、お湯の提供、手洗い設備、冷暖房の完備を決め運用している。</p> <p>この事業の発案は、保育園の職員から提案され事業に結びついた。スタート時は公共施設のみだったが、職員が直接民間へ訪問して民間商業施設とも共働することができていることもあり、導入の先見性と担当課・担当者の行動力が評価できる。</p> <p>赤ちゃんの駅のフラッグ、ステッカーを表示して、利用者に分かりやすく</p>		



赤ちゃんの駅  
フラッグ、ステッカー

	<p>している。また、児童施設などに立ち寄る機会を増やし保護者が相談しやすい環境ができることや、教育関連のパンフレットを置き、市の施策をPRできる。</p>
<p>本市に反映できること</p>	<p>本市においても、授乳室の表示があるが、分かりやすいわけではなく、民間事業者も含め赤ちゃんの駅の様な、市民が見て分かりやすく、統一感があるものでの表示や施設整備等を行うこと。また、特に育児相談やコールセンターのパンフレットを置くことで、利用者に周知することにより、虐待防止等の効果が期待できる。</p>
<p>その他 (意見・課題 など)</p>	<p>フラッグ、ステッカーがグッドデザイン・ライフスケープデザイン賞を受賞し、ネーミングのわかりやすさ、導入が容易なことが評価されている。</p> <p>また、行政の施策はどうしても男性目線になりがちであるが、赤ちゃんの駅取組のように、女性目線の取組が本市においても必要になってくると感じた。</p> <p>併せて、子育て支援の取組について説明を受けたが、ショートステイのサービスは本市も行っているが、板橋区と比べるとまだまだ使いにくい上に、利用料も高く設定されている。女性の社会進出策、少子化対策として位置付けるならば、このようなサービスを行政も積極的に提供し、利用を促さなければならない。</p>

## 視察報告書【2】

委員会名	教育次世代委員会	委員長	山野辺 秋夫
視察日時	平成27年7月15日（水）午後1時40分～午後3時10分		
視察先・概要	新潟県新潟市 人口：803,177人 面積：827.90km <sup>2</sup> 特記事項：政令指定都市 ※人口はH27.5.末現在		
視察内容	野外型子育て支援センター「森のいえ」について		
選定理由	平成25年4月に開設された「森のいえ」は、NPO法人が市の委託を受け運営をしている全国初の「野外型」地域子育て支援センターである。当施設では、親子が里山の豊かな自然の中で過ごし子育てができる環境を提供している。乳幼児期における自然体験の重要性を広く知らせ、里山の自然空間を子育ての環境として使いやすくすることを目指し、市と連携して開設に至った。この取組は今後の本市において参考となると判断したため。		
豊田市の現状と課題	本市においても、0歳～未就学児向けの遊び場などを提供している子育て支援センターは、豊田市の中心部や、市内子ども園などに設置されており、屋内施設は充実している。しかし、自然の中で遊ぶことのできる、屋外施設として鞍ヶ池プレーパークがあるが、不定期開催であるなど、必ずしも充実している状況ではない。乳幼児期に子どもたちの成長や遊びに欠くことのできない自然体験を取り入れ、なおかつ安心して子育てができる場所づくりを提供することは、重要である。		
視察概要	<p>●野外型子育て支援センター併設「森のようちえん」概要 新潟市秋葉区の、公園、湖、滝、川、里山をまるごと生かした「森のようちえん」。基本的に、子どもたちが自由に遊ぶ時間で1日が構成。周辺には、それぞれ異なる環境の約10ヶ所のフィールドがあり、日によってどこかに散歩へ行きます。Akiha 森のようちえんのフィールドには、園長・園のスタッフ手作りの遊びの仕掛けや小屋があり、手作りならではの温もりがある。新潟市認可の子育て支援センター「森のいえ」も併設。</p> <p>●里山子育て支援センターAkiha 森のいえの概要 子どもの成長や遊びにとって欠くことのできない、自然体験を取り入れた未就学児とその保護者のための施設。親子が豊かな自然の中で過ごし、人や地域とつながりながら安心して子育てできる場を提供。</p> <p>・開館日・対象年齢 火～金 9:00～14:00 概ね0～3歳まで 土（第2、4）9:00～14:00 0～6歳までの未就学児 日（第1、3）9:00～14:00 0～6歳までの未就学児 ・土・日は利用対象年齢が0～6歳に広がり、子どものあそびや動きの幅も大きくなる。それぞれの年齢のあそびを十分保証するために、見守って頂けるよう、1歳を含む複数のお子さんを連れて来館される際は、なるべく複数の大人の方と。</p> <p>●里山子育て支援センターAkiha 森のいえの利用手順 ・初回のみDVDでの基本的事項の説明、同意を記入 ・受付（必要事項記入、名札200円で購入） ・退館時刻の記入、名札の返却</p>		
評価とその理由	<p>野外型の子育て支援センターとして、NPO法人アキハロハスアクションは、個人、法人からの協賛金、市からの委託費750万円で運営しており、地域の子どもたち、親子が自然と共生し、より良い子育て支援環境を提供できており評価できる。</p> <p>公共施設としては、費用対効果などの観点から、事業化しにくい、自然体験を取り入れた野外型の子育て支援センターの企画・運営が、NPO法人アキハロハスアクションに委託する形で開設できたことは、とても素晴らしくNPO法人ならではの取組だと思う。野外型であること、NPO法人との共働である事での、難しさを今でも抱えながらも活動を継続している。</p>		



<p>本市に反映 できること</p>	<p>子育て支援センターとして、野外型「森のいえ」をNPOで運営しており、0～6歳までの親子を対象として定期的を開催されており、本市においてもNPOの参画を更に促し、子育て支援センターという形で反映できる。</p> <p>子育て支援センターという施設が、画一的なものになっている。行政も工夫してバリエーションを増やすべき。本市の廃園した子ども園を条件に応じて支援センターとして施設の活用をしているが、もっと工夫してほしい。森のいえは、NPO法人ならではの取組だが、そういうものをヒントにして取り組むこと。</p>
<p>その他 (意見・課題 など)</p>	<p>本市も鞍ヶ池において、とよたプレーパークの会が子どもの遊び場として、運営しているが、子育てと言う部分で市としての事業、支援なども考えられる。</p> <p>NPO法人代表者の経験を生かし、自然の中でのびのびと子どもを育てたいという思いが実践された素晴らしい施設である。子どもが成長する中で、チャレンジすること、そして目標を達成することを経験させることが非常に重要である。</p> <p>財政運営が厳しい。行政からの委託料で、人件費をまかないきれず、協賛金を募っている。また、保育士の数が減っている中で人材確保に取り組む必要がある。</p> <p>未就学児のけがが懸念される。森のいえでは、大きなけがは発生していないとのことだったが、公共施設で事故が発生すると大きな問題に発展する。環境整備をしなければならないし、保護者に任せっきりという訳にはいかないため、しっかり考えていく必要がある。</p>

## 視察報告書【3】

委員会名	教育次世代委員会	委員長	山野辺 秋夫
視察日時	平成27年7月16日（木）午後1時30分～午後 3時00分		
視察先・概要	静岡県浜松市 人口：808,824人 面積：1,588.06km <sup>2</sup> 特記事項：政令指定都市 ※人口はH27.7.1現在		
視察内容	小中一貫教育・小中一貫校の推進について		
選定理由	浜松市では、国の新学習指導要領を参考に、中学校区を一つの単位として、「小学校と中学校の9年間の学びと育ちをつなぐ教育」とし、「小中一貫教育」に取り組んでいる。また、より充実した一貫教育をするために一部の地域では「小中一貫校」設置している。この取組は、今後、市内の全小中学校にて、小中連携を考えている本市において参考となると判断したため。		
豊田市の現状と課題	本市においては、第2次教育行政計画で、「学びのつながりを重視した教育の推進」を重点テーマとしており、「園小中高連携」の一環として、小中学校までの学びを体系化するために、現在とよた大好きっこカリキュラムを作成中である。本年度は、全校実施に向けた各地域での調整や、重点校での運用と実践例の集約などに取り組んでいるところである。今後、取組を推進していくにあたり他市事例などの研究が必要である。		
視察概要	<p>●浜松市小中一貫教育基本方針（小学校99校、中学校48校、市立高等学校1校）</p> <p>1. 基本方針改定の経緯 浜松市が平成19年4月に策定した「浜松市小中一貫教育基本方針」でも、小中一貫教育の目的を「小学校と中学校の滑らかな接続」と「小規模校への対応」としてきた。浜松市では、「小中一貫教育」を「小学校と中学校の9年間の学びと育ちをつなぐ教育」とし、市内48すべての中学校区で推進。</p> <p>2. なぜ小中一貫教育をすすめるのか 浜松市では「教育は人づくり」と捉えている。子どもたちの様子から、規範意識、思いやり、生命の尊重、自尊感情といった「人」としての大切な部分が薄れていくことを心配する声が聞かれ、子どもたちの「心の耕し」が急務。</p> <p>3. 現在の取組 浜松市には48の中学校区がある。小中一貫教育は、その中学校区を基本。</p> <p>4. 中学校区ごとに「目指す子どもの姿」を明確にする 子どもたちの小学校と中学校の9年間の「学び」をつなげるために、学習の系統性を今一度見直す。各校が「目指す子どもの姿」を意識した一貫性のある指導。</p> <p>5. 目指す子どもの姿を家庭や地域とも共有する 学校、家庭、地域が同じ方向を向いて子どもを育てていけるように、「目指す子どもの姿」を保護者や地域住民とも共有し、三者が一体となった教育をしていく。</p> <p>6. 小中一貫校について 浜松市における小中一貫校の設置は、交通の利便性のよい地域や、設置を望む声が上がっている地域を対象とする。また、「小中一貫校」は、小中一貫教育の実践や成果を他の中学校区に広げていく「モデル校」と位置づける。</p> <p>7. 施設一体型小中一貫校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年開校：引佐北部小中学校（小学校3校、中学校1校） （新設教科の設立国際コミュニケーション科、ふるさと科）</li> <li>・平成26年開校：庄内学園（小学校2校、中学校3校） （地域からの連携によるいのちの学習）</li> <li>・平成29年開校予定 浜松中部学園</li> </ul> <p>8. 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの学力で資質・能力の向上に向けた授業改善が必要</li> <li>・教員の多忙化があり学校、家庭、地域の役割の明確化</li> <li>・社会のめまぐるしい変化への課題対応（防災、いじめ、情報など）</li> </ul>		
評価とその理由	<p>浜松市は、平成22年に小中一貫教育方針を打ち出し、9年間の学びと育ちをつなぐ教育を推進し、それを踏まえたカリキュラムを実地し地域事情に合わせて施設一体型小中一貫校2校実施しており評価できる。</p> <p>過疎化の進む地域からの要望で、3小1中学校を施設一体型小中一貫校としたことで、複式学級の解消や競争意識の芽生えなどが生まれた。施設一体型小中一貫校では、小1ギャップや中1プロブレムの対応に地域が一つになって取り組むことができることは良い。</p> <p>また、施設一体型小中一貫校でも中学校区の全ての小学校が一貫校に参加</p>		





	<p>しているわけではないということであった。地域の意見や学校の方針などを無視することなく、進められた点は評価できる。</p> <p>小・中学校両方の免許を持った教員が一貫校に配属されており、授業の受け持ちも幅が広がると考えられる。</p> <p>子どもたちを「夢と希望をもって学び続ける市民」へと成長させていくためには、発展段階に適した指導を積み重ねていくことが不可欠である。中学校を卒業するときこのような子どもであってほしいという「目指す子どもの姿」を明確にし、その姿を小学校、中学校、家庭、地域が共有して一貫性のある指導をしている。</p>
<p>本市に反映 できること</p>	<p>本市においても、とよた大好き子カリキュラムによる小中学校の学びを体系化しており、今後、中山間地域においても、地域の事情を勘案し施設一体型小中一貫校も考えられる。ただし、メリットやデメリットを十分に検証し、判断することが重要である。</p> <p>中学校区内における目指す子どもの姿の設定と学校・地域・家庭における一貫性のある活動の展開。</p>
<p>その他 (意見・課題 など)</p>	<p>浜松市において、平成29年度に開校予定の浜松中部学園は市内で27学級としており注視していきたい。また、課題として挙げられている、学力向上、教師の多忙化などに対応する取組も、本市で取り組んで行く必要がある。</p> <p>地域に合わせ、施設一体型小中一貫校としたが、中山間地の過疎化、人口減少が小中一貫校の背景にあるようにも感じた。同時に小規模校の統廃合促進が懸念されるので、慎重な対応が必要である。小中学校、それぞれが地域の拠点であることも忘れてはいけない。</p> <p>小中一貫教育、小中一貫校の定義が国の段階で明確にされていないため、その取組状況や捉え方は自治体によって異なっている。本市においては、先進市の動向をよく見極めることが必要である。</p>